

可解な量子力学系があったとき, ground state から  $W'(x)$  を構成し, 超対称パートナーとして可解系を見つけること, さらに一般化して, パラメータ  $\mathcal{E}$  として  $H = A^\dagger A + \mathcal{E}$  に対する超対称パートナーを見つけ, 可解な量子力学系のファミリーを作る方法を見た.

前者の構成法に対する具体例を見る.

### Example 1

ポテンシャルを

$$V_{(1)}(x) = \begin{cases} -\frac{\pi^2 \hbar^2}{2mL^2}, & (0 < x < L) \\ \infty, & (x > 0, L < x) \end{cases} \quad (1)$$

で与える. Ground state は  $\psi_{0,+}(x) = \sqrt{2/L} \sin(\pi x/L)$  であり, 第  $n$  励起状態は  $\psi_{n,+}(x) = \sqrt{2/L} \sin((n+1)\pi x/L)$  でエネルギーは  $E_n = n(n+2)\pi^2 \hbar^2 / (2mL^2)$  である.

今, 基底状態を用いて,  $W'_{(1)}(x) = -\hbar \psi'_0(x) / \psi_0(x) = -\pi \hbar / L \cot(\pi x/L)$  と定めると, ポテンシャルは

$$V_{(1)}(x) = -\frac{\pi^2 \hbar^2}{2mL^2} \quad (2)$$

$$V_{(2)}(x) = \frac{\pi^2 \hbar^2}{2mL^2} \left( \frac{2}{\sin^2(\pi x/L)} - 1 \right) \quad (3)$$

となり, これは Witten model のところで見たと同じである.

これら二つのポテンシャルからなる系のエネルギーは超対称性から同じスペクトラムになり, 二つ目の系の固有状態は既知である  $\psi_{n,(1)}(x)$  を用いて,  $\psi_{n,(2)}(x) = A\psi_{n,(1)}(x)$  で与えられる. ここで,  $A$  は intertwiner で

$$A = \frac{-i\hbar}{\sqrt{2m}} \left( \frac{d}{dx} + \frac{1}{\hbar} W'(x) \right) = \frac{-i\hbar}{\sqrt{2m}} \left( \frac{d}{dx} - \frac{\pi}{L} \cot\left(\frac{\pi x}{L}\right) \right) \quad (4)$$

である. 具体的に幾つか計算し,  $H_{(2)}$  の固有状態になっていて, 固有値は  $H_{(1)}$  に等しいことが確認できる.

## 0.1 形状不変性

SUSY では, 片方の系が exactly solvable であるとき, 各エネルギー固有値, 固有状態にパートナーを対応付けて exactly solvable にすることが出来た. つまり, この手法は片方の系が exactly solvable でないと使えないが, 形状不変性 (Shape invariance: SI) と組み合わせることで, zero energy state さえわかっていれば二つの系が exactly solvable であることが言える.

### Definition 2 (Shape invariance)

系のパラメータ  $a$  を明示し, 超対称パートナー Hamiltonian  $H_\pm(a)$  があったとする. これらに形状不変性があるとは

$$H_-(a) = H_+(a_1) + \varepsilon(a_1), \quad a_1 = f(a) \quad (5)$$

なる関係があることをいう.

言葉でいうと, パラメータを  $f$  で変換して, 定数  $\varepsilon(a_1)$  の違いでパートナーに一致するときに, 形状不変性があるという.

### Example 3

定義域  $-\pi/2 < x < \pi/2$  で superpotential を  $W(x; a) = \hbar a \log(\cos x)$  で与える. このとき, ポテンシャルは

$$V_\pm(x; a) = \frac{\hbar^2}{2m} \left( \frac{a(a \mp 1)}{\cos^2 x} - a^2 \right) \quad (6)$$

で, これは,  $a \mapsto a+1$  とすると  $V_-(x; a) = V_+(x; a+1) + (a+1)^2 - a^2$  となる. つまり,  $a_1 = a+1$ ,  $\varepsilon(a_1) = a_1^2 - (a_1-1)^2$  の形状不変性がある.

この状況は, up to 定数シフトで  $H_-(a)$  と  $H_+(a+1)$  が同じ Hamiltonian で, eigenstate は  $\psi_{n,+}(x; a) = \psi_{n,+}(x; a+1)$ ,  $(n \geq 0)$  であり, eigenenergy は  $E_{n+1,-}(a) = E_{n,+}(a+1) + \varepsilon(a+1)$  である.  $H_+(a+1)$  の groundstate ( $n=0$ ) と  $H_-(a)$  の groundstate ( $n=1$ ) が対応するので, label がずれている.

これで,  $H_\pm(a)$  の全ての eigenstate 及び eigenenergy がわかることになる. まず, 形状不変性から  $\psi_{1,-}(x; a) = \psi_{0,+}(x; a+1) \propto \cos^{a+1}(x)$  となり, SUSY の intertwiner を用いて,  $\psi_{1,+}(x; a) = A^\dagger(a) \psi_{1,-}(x; a)$  となる. 更に形状不変性を使うと  $\psi_{2,-}(x; a) = \psi_{1,+}(x; a+1) = A^\dagger(a+1) \cos^{a+1}(x)$  と順次求めることができる.

energy に関しても, SUSY より  $E_{n,+}(a) = E_{n,-}$  があるので,  $E_{1,-}(a) = E_{0,+}(a+1) + \hbar^2((a+1)^2 - a^2)/(2m) = \hbar^2((a+1)^2 - a^2)/(2m) = E_{1,+}(a)$  で,  $E_{2,+}(a) = E_{1,+}(a+1) + \hbar^2((a+1)^2 - a^2)/(2m) = \hbar^2((a+2)^2 - a^2)/(2m) = E_{2,+}(a)$  などと求められる.  $\square$

同様の手法で一般論を作れる.

### Theorem 4

$H_+(a)$  の eigenenergy と eigenstate は  $\psi_{0,+}(x; a)$  から次のようにして作れる.

$$\psi_{n,+}(x; a) = \prod_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{E_k(a_{n-k})}} A^\dagger(a) A^\dagger(a_1) \cdots A^\dagger(a_{n-1}) \psi_{0,+}(x; a) \quad (7)$$

$$E_n(a) = \sum_{k=1}^n \varepsilon(a_k) \quad (8)$$

ここで,  $a_n := f(a_{n-1}, a_0 := a)$  で  $n \geq 0$  である.

**Example 5** (調和振動子)

$$H_\pm(\omega) = -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2} + \frac{1}{2} m \omega^2 x^2 \mp \frac{\hbar \omega}{2} \quad (9)$$

で, ゼロエネルギー解は  $\psi_{0,+}(x; \omega) = (m\omega/\pi\hbar)^{1/4} e^{-m\omega x^2/(2\hbar)}$  である. 形状不変性は  $H_-(\omega) = H_+(\omega) + \hbar\omega$  で,  $\varepsilon(\omega) = \hbar\omega$  である.

これより, エネルギー固有値は  $E_n(\omega) = \sum_{k=1}^n \varepsilon(\omega) = n\hbar\omega$  で, 固有状態は Hermite 多項式

$$H_n(q) = (-1)^n e^{q^2/2} \left( \frac{d}{dq} - q \right)^n e^{-q^2/2} \quad (10)$$

を使って,

$$\psi_{n,+}(x; \omega) = \prod_{k=1}^n \frac{1}{\sqrt{E_k}} (A^\dagger)^n \psi_{0,+}(x; \omega) \quad (11)$$

$$= \frac{1}{\sqrt{(\hbar\omega)^n}} \left( \frac{-i\hbar}{\sqrt{2m}} \left( \frac{d}{dx} - \frac{m\omega}{\hbar} x \right) \right)^n \left( \frac{m\omega}{\pi\hbar} \right)^{1/4} e^{-m\omega x^2/2\hbar} \quad (12)$$

$$= \frac{2^n i^n}{\sqrt{n!}} \left( \frac{m\omega}{\pi\hbar} \right)^{1/4} e^{-m\omega x^2/2\hbar} H_n \left( \sqrt{\frac{m\omega}{\hbar}} x \right) \quad (13)$$

となる.